

従来日本人のルーツについては、大陸から韓半島経由で渡ってきたと多くの学者が考えていました。(下記参照)

◆ 日本人のルーツについて

・ 司馬遼太郎の史観（朝日新聞社2005年『韓のくに紀行』

「どういう目的で韓国にいらっしゃるんですか」

「韓国への想いのたけというのが深すぎて、ひとことで言いにくかったのである。」

私は、日本人の祖先の国にゆくのだ、ということをおうとおもったが・・・」

・ 産経新聞社 生命ビックバン取材班 2009年『日本人の起源』

弥生時代には、水田稲作や青銅器、鉄器など様々な文化を持つ集団が、大陸から波状的に渡来したと考えられている。

彼ら「渡来系弥生人」が列島内を拡散、先住民の縄文人の子孫たちと混血を繰り返して生まれたのが、「日本民族」だ。（p 264）



司馬遼太郎（しばりょうたろう）
1923年大阪府生まれ。大阪外事専門学校（現大阪外国語大学）蒙古科卒業。
60年『島根の城』で直木賞受賞。75年芸術院恩賜賞受賞。93年文化勲章受章。
96年死去。
主な作品に『燃えよ剣』、『竜馬がゆく』、『国盗り物語』（菊池寛賞）、『世に棲む日々』（吉川英治文学賞）、『花神』、『坂の上の雲』、『翔ぶが如く』、『空海の風景』、『胡蝶の夢』、『ひとびとの足音』（読売文学賞）、『鞍馬騒動録』（大佛次郎賞）、『この国のかたち』、『対談集 日本人の顔』、『対談集 東と西』、『対談集 日本人の顔』、『対談集 九つの問答』、『対談集 日本人への遺言』、『断談 時代の風音』、『街道をゆく』シリーズなどがある。



◆ 『日本人の源流』（斎藤成也2017） が描く新人拡散ルート



◆ 新版「日本人になった祖先たち」 （篠田謙一2019）が描く新人拡散ルート

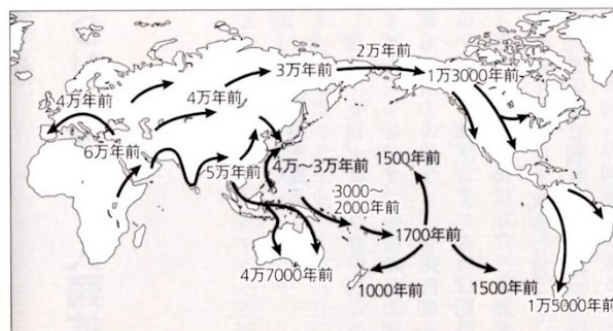


図3-1 DNAと考古学的な証拠から描かれた、新人の初期拡散の経路とその時期

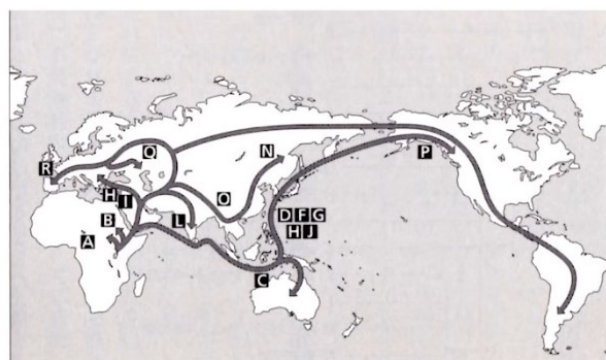


図2-3 Y染色体DNAのハプログループの分岐形態から類推された世界への拡散の様子（Wells 2002 より改変）

ところが、ジェノグラフィック・プロジェクトによりますと逆に日本列島から韓半島經由で大陸へのルートであると考えられています。（下記の図参照）

❖ ジェノグラフィック・プロジェクトが描く新人拡散ルート
(2005)

HUMAN MIGRATION ROUTES



- Map shows first migratory routes taken by humans, based on surveys of different types of the male Y chromosome. "Adam" represents the common ancestor from which all Y chromosomes descended
 - Research based on DNA testing of 10,000 people from indigenous populations around the world
- Source: The Genographic Project

解説：ジェノグラフィック・プロジェクト 出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』ジェノグラフィック・プロジェクト（英: The Genographic Project）とは、ヒトのY染色体ハプログループ（父系）やミトコンドリアDNA（母系）の情報を基に、人類の共通祖先の発祥地から全世界への拡散ルートを特定しマップ化していくことにより、人種・民族の起源と相互関係を視覚的に明らかにしていくことを目的とした進化人類学的研究。

日本列島から韓半島經由で大陸へのルートを考える上で、一例として下記の年表をご覧ください。韓国のBC5000～BC10000年の間は、出土物がほとんどありません。

❖ 韓国・國立博物館の巻末年表（1993）（『概説 韓国考古学』2013）

연 표 CHRONOLOGICAL TABLE

나라 연대	한 국 KOREA	중 국 CHINA	일 본 JAPAN
BC 30000	구석기시대 舊石器時代 PALAEOLITHIC	구석기시대 舊石器時代 PALAEOLITHIC	선토기시대 先土器時代 PRE-POTTERY PERIOD
10000			9000
5000	신석기시대 新石器時代 NEOLITHIC	신석기시대 新石器時代 NEOLITHIC	
	빗살무늬토기문화 櫛文土器文化 COMB-PATTERN POTTERY CULTURE	양소문화 仰韶文化 YANGSHAO	
		용산문화 龍山文化 LUNGSHAN	
1000		상 商 SHANG	조문시대 縄文時代 JOMON PERIOD
900		서주 西周 WESTERN CHOU	
800			
700	청동기시대 靑銅器時代 BRONZE AGE	춘추시대 春秋時代 SPRING & AUTUMN	
600	고조선 古朝鮮 OLD CHOSON	동주 東周 EASTERN CHOU	
500	민무늬토기문화 畚文土器文化 PLAIN COARSE POTTERY CULTURE		
400		전국시대 戰國時代 WARRING STATES	
300		221 진 秦 CH'IN	
200	초기철기시대 初期鐵器時代 EARLY IRON AGE	206 서(전)한 西(前)漢 WESTERN HAN	300
100	삼한 三韓 THREE HAN STATES		
0	57 신라 新羅 SILLA	25 동(후)한 東(後)漢 EASTERN HAN	야요이시대 彌生時代 YAYOI PERIOD
100	42 가야 伽耶 KAYA		
200	18 백제 百濟 PAEKCHE	220 삼국 三國 THREE KINGDOMS	
	37 고구려 高句麗 KOGURYO		
	108 낙랑 樂浪 Lolang		

つまりこの期間は、韓半島から人が居なくなってしまったと考えられます。しかし、縄文人の人骨や縄文土器などは出土しています。これはどう考えたら良いのでしょうか。

これに対する仮説は、実は「日本列島から縄文人が、移り住みついていた」ということになります。関連する本（韓国人は何処から来たか）もあります。歴史書（三国志・隋書・三国史記）の中にも韓半島に倭人が住んでいた記録があります。

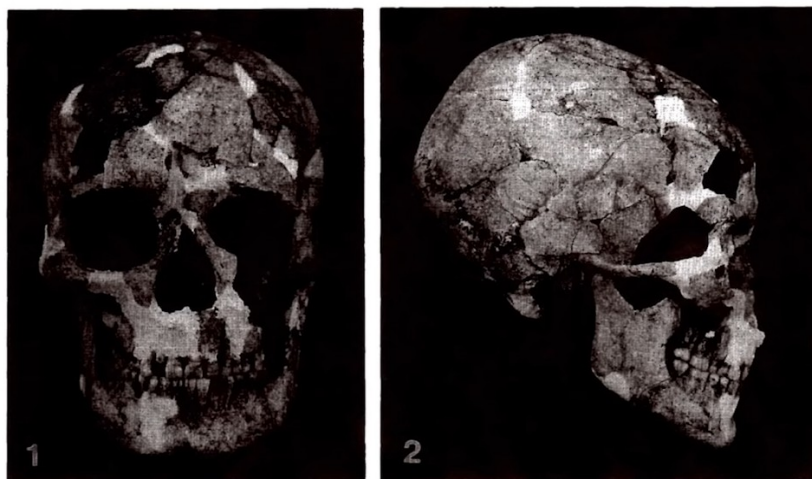
写真の上左は、黒曜石（佐賀県腰岳産）右は、縄文土器（曾畑式土器：約7300年前の鬼界カルデラ大噴火後）、年表の韓半島「櫛目文土器文化」の土器。下の写真はBC4000年の頭骨（縄文人）。出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

◆ 韓国國立博物館の展示



◆ 韓国・煙台島で発掘された前4000年紀頭骨

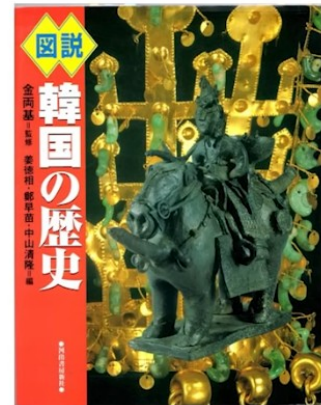
鹿児島大学歯学部口腔解剖学講座Ⅱ『朝鮮半島出土人骨の時代的特徴』1998年より
(15体中、前歯部が確認できた6体の頭骨の一例 『韓国人は何処から来たか』 p 39)



◆ 韓国人は何処から来たか

- 旧石器時代人は、現在の韓（朝鮮）民族の直接の祖先ではなく、直接の祖先は約4000前の新石器時代人からである。

(金両基監修 姜徳相 鄭早苗 中山清隆)



今度は、日本からではなく、北部シナからやって来て、縄文人の住んでいた半島を、北から圧迫していった！

◆ 井上秀雄 『古代朝鮮』

「1～4世紀韓半島南部は「倭」と認識されていた」

『三国志』・韓 「韓は帯方の南にあり、東西は海を以て限りとなし 南は倭と接す」

『隋書』・東夷 「高句麗の先祖は扶余から出ている」「百済王の先祖は高句麗から出ている」
「新羅王の先祖は、百済人で、百済を逃れて海路新羅に来て国王になった」



図6 1～2世紀の韓半島
(井上秀雄著『古代朝鮮』講談社学術文庫 P.45より)

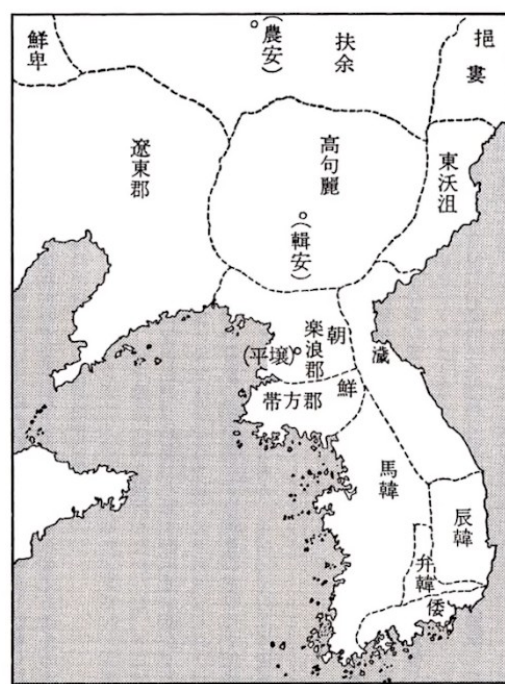
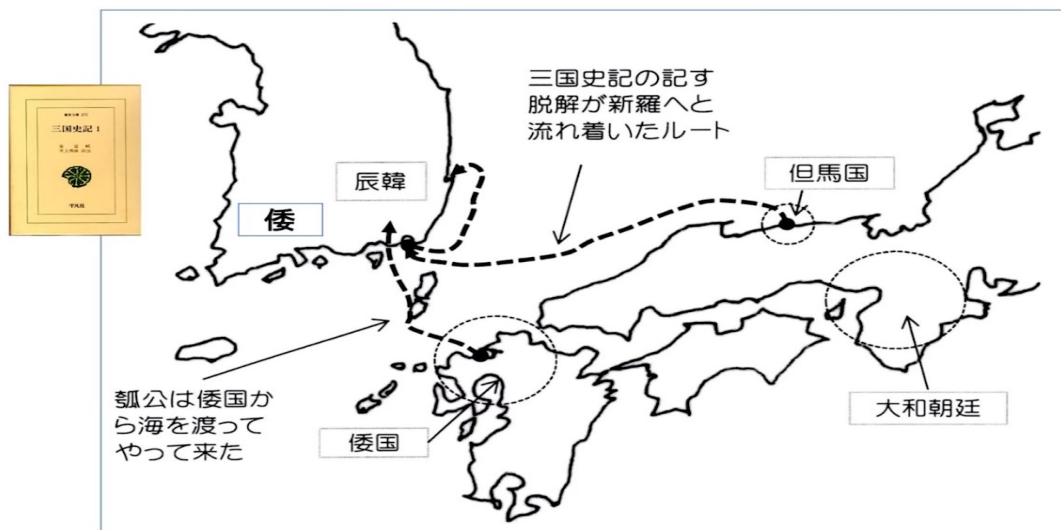


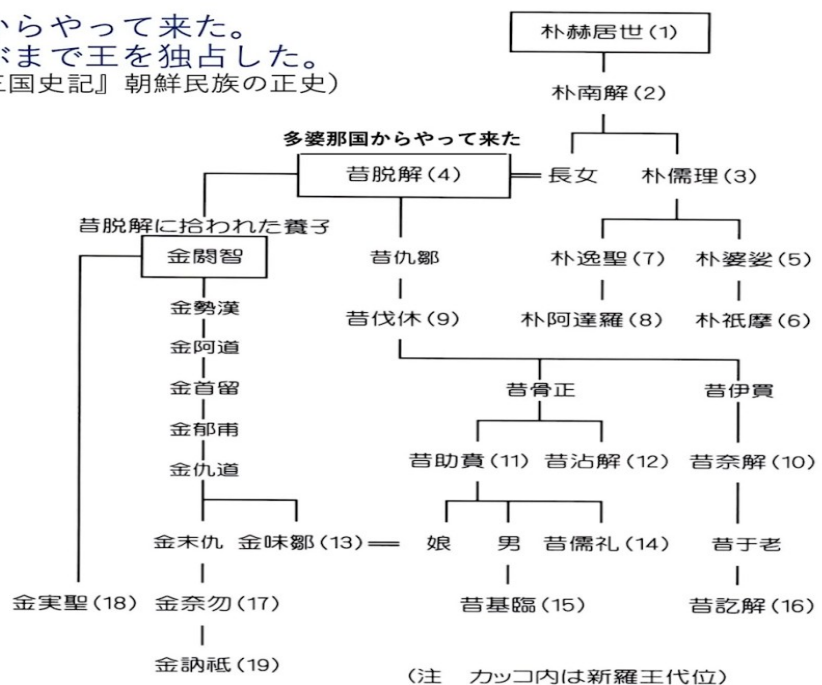
図7 『三国志』の記す韓半島の諸民族
(井上秀雄著『古代朝鮮』講談社学術文庫 P.64より)

10

◆『三国史記 1』の記す多婆那国、辰韓と倭国、大和朝廷の位置関係
「脱解(在位57-80)は昔し多婆那国で生まれた。その国は倭国の東北一千里の所にある」



◆新羅王族は日本からやって来た。
そして新羅が滅ぶまで王を独占した。
(12世紀に完成した『三国史記』朝鮮民族の正史)



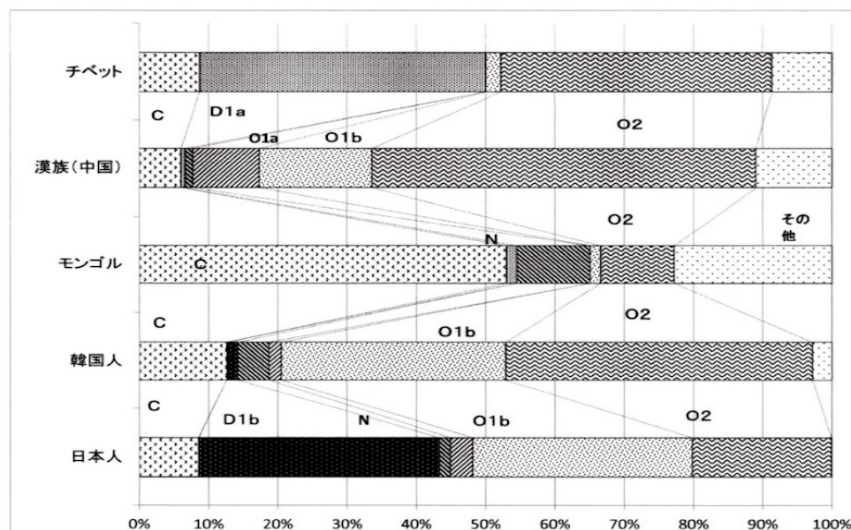
(P 1～5 までの図や写真等の資料は、長浜浩明氏の資料によります。)

解説：近隣諸国条項（きんりんしょこくじょうこう）とは、日本国の教科用図書検定基準に定められている「近隣のアジア諸国との間の近現代の歴史的事象の扱いに国際理解と国際協調の見地から必要な配慮がされていること。」という規定のこと。改正 1982 年（昭和 57 年）。

問題点として、教科書の記載に関して国際的な客観性を担保できるような基準を設けることは、国家間の歴史認識の溝を埋める点で好ましいという意見もある。一方で、「近隣諸国との外交関係に配慮する」と言う政治的理由で、世界百数十ヶ国の中でたった3ヶ国でしかない、中国・韓国・北朝鮮の主観に基づく歴史観に迎合するような制度が、果たして国際的な客観性を担保できるような基準を設けることになるのか大いに疑問であるとする見解もある。また、近隣諸国である中国・韓国・北朝鮮の教科書作成に関し同様の規定がないことを問題とする見解もある。またこの条項を利用した外交干渉も懸念される。出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

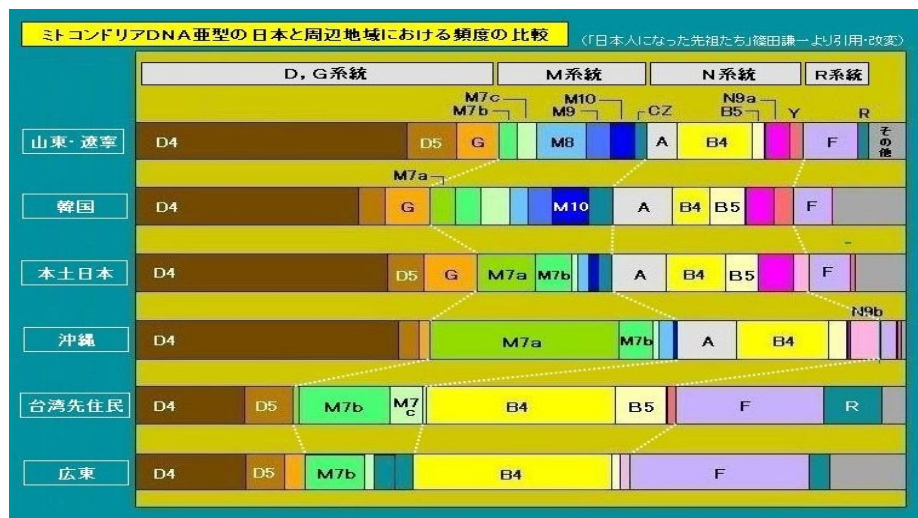
歴史書や考古学出土品を見てきましたが、DNA レベルでは、どうでしょう。

❖日本人及び周辺国の遺伝子構成（Y染色体）



ハプロタイプ サブグループ	D			O			他	n	論文作成者・年
	C	D1a	D1b	N	O1a	O1b			
日本人	8.5	0.1	34.7	1.6	3.2	31.7	20.1	0.1	259 Hammer 2005
韓国人	12.6	0.0	1.6	4.5	1.8	32.4	44.3	2.8	506 Kim 2011
モンゴル	53.0	1.5	0.0	10.6	0.0	1.5	10.6	22.8	65 Xue 2006
漢族(中国)	6.0	0.6	0.0	1.1	9.6	16.3	55.4	11.0	166 Karafet 2005
チベット	8.7	41.3	0.0	0.0	0.0	2.2	39.1	8.7	46 Wen 2004

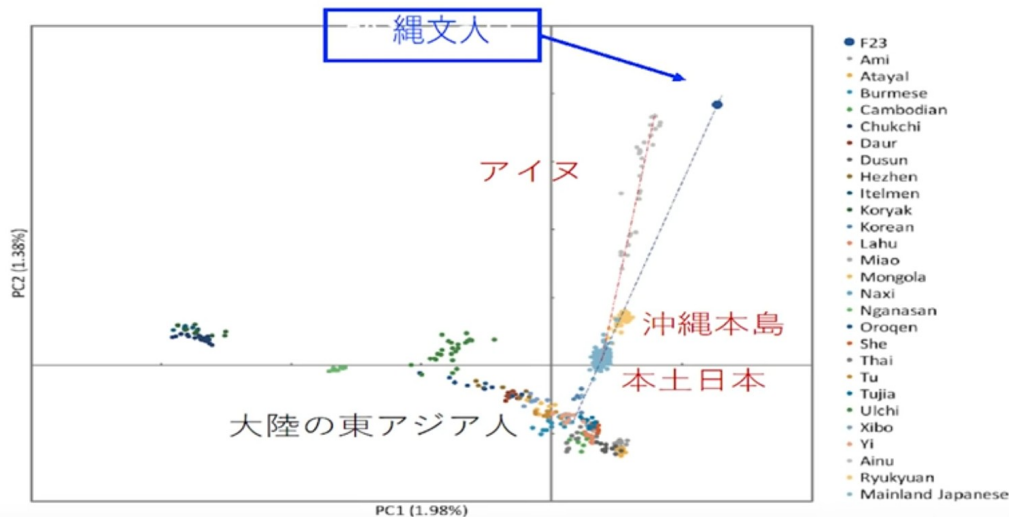
図ー 1 日本及び周辺地域のY染色体ハプログループの頻度
(出典:フリー百科事典「ウィキペディア」から文献根拠の明らかなデータを基に作成)



上図では、男性の遺伝子（Y 染色体）と女性の遺伝子（ミトコンドリア DNA）では明らかな違いがあります。D 男性が 3 割残っていて他の地域とは違いが際立っています。しかし、母系の mtDNA は、山東、遼寧、韓国と本土日本は、ほとんど差異がないことがわかっています。この状況については、O タイプ（Y 染色体）の進出後に、山東、遼寧、韓国から大量の弥生・渡来人がやって来て形成された mtDNA と考えられています。
(P9 縄文時代人、弥生時代人、現代人のゲノムの関係を参照)

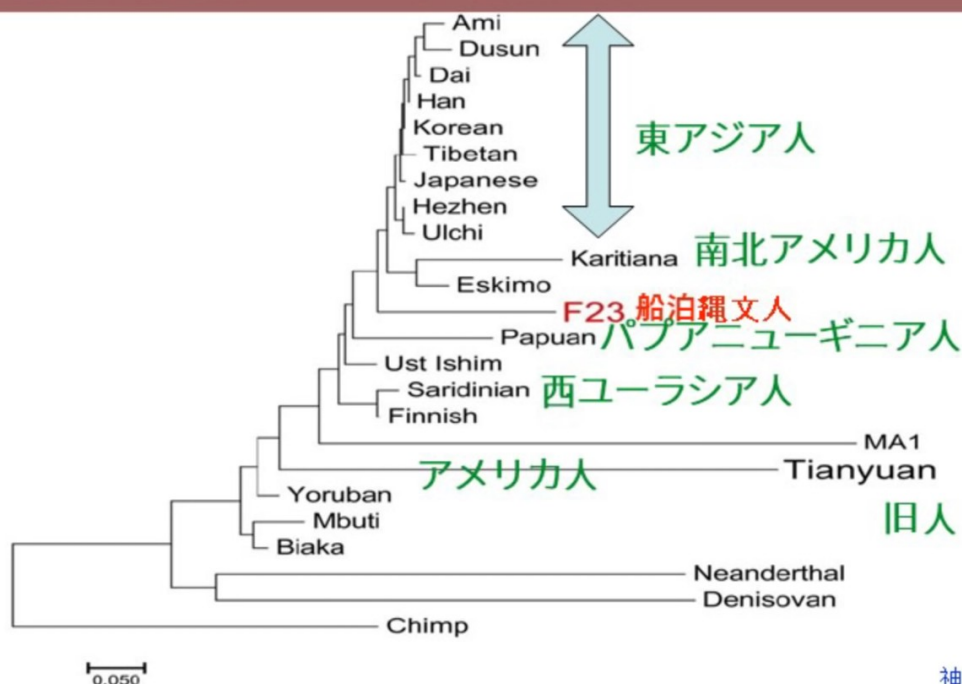
それでは、縄文人との関係はどうなのでしょう
 国立遺伝学研究所の発表を見ると、次のように縄文人は大陸の東アジアの人たちとはだいぶ違っているようです。本土日本人や沖縄本島人は縄文人の系統と考えられます。しかしアイヌ人は縄文人が起源であるとは云えないようです。

(1-1) 現代の日本人は縄文人からDNAを受け取った



- 縄文人は、東アジアの集団とは別起源で、その集団の一直線上には位置していません。（上図）
 - 縄文人は、東アジアの集団より早い時点で分かれており、下図で、近いのは Karitiana Eskimo とされており、次に東アジア人となっています。（下図）
- F23 船泊縄文人は、礼文島で発見された3800年前の女性の人骨。

近隣結合法による系統樹



神澤秀明ら(2019)より

アイヌ人の祖先集団とヤマト人の祖先集団が混血をはじめた時期の推定

Ainu dataset	Ainu ancestry (frappe results at k=2)	混血開始の時代	
		世代前	年前
Ainu-15	98.2%	58	1,450
Ainu-20	92.9%	56	1,400
Ainu-28	82.5%	55	1,375

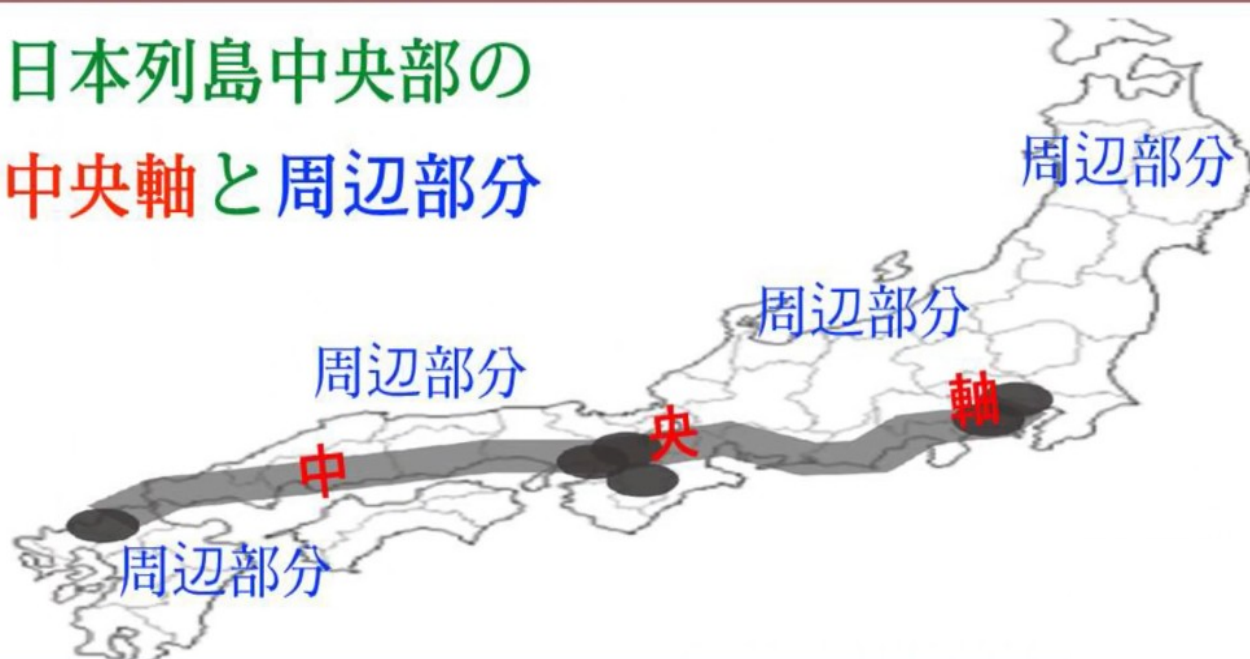
1世代=25年と仮定すると およそ紀元6～7世紀

1世代=30年と仮定すると およそ紀元3～4世紀

Jinam・斎藤ら（2015）より

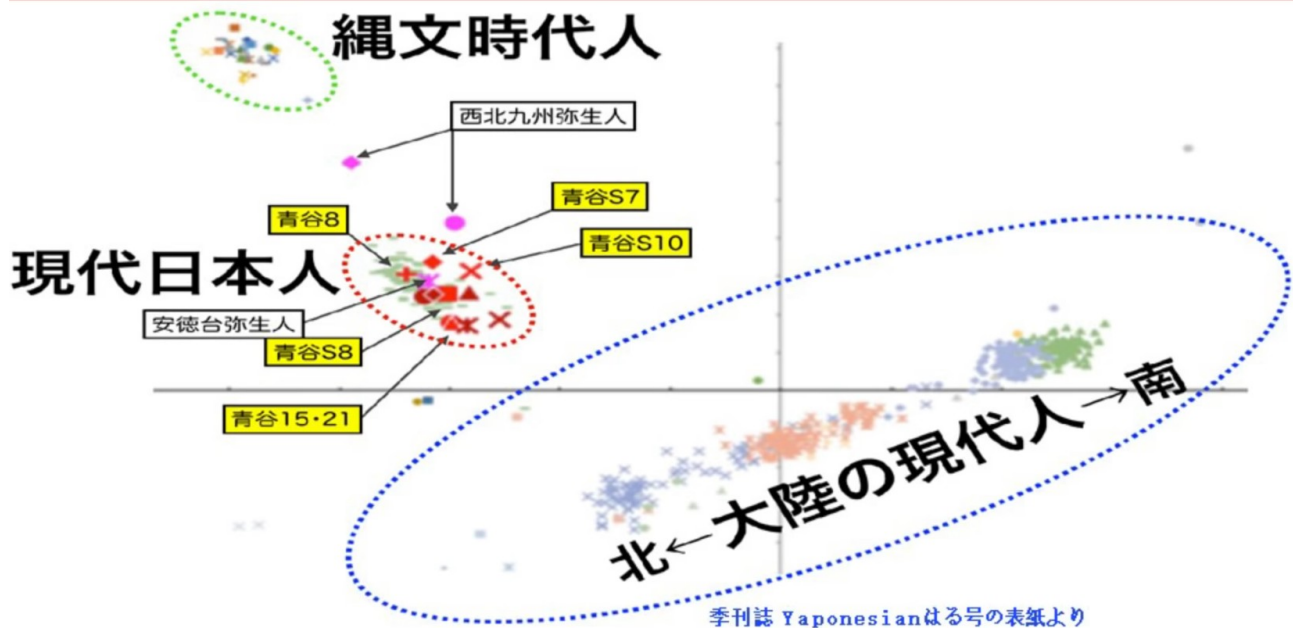
ヤマト人のうちなる二重構造

日本列島中央部の 中央軸と周辺部分



■混血の度合いは、周辺部分に行くほど薄くなります。

縄文時代人、弥生時代人、現代人のゲノムの関係



本土日本人（ヤマト人）に伝えられた縄文人ゲノムの割合

神澤ら（2019）： 13% {船泊縄文人}

神澤ら（2017）： 12% {三貫地縄文人}

Jinamら（2015）： 14–20% {現代人のみ}

アイヌ人とオキナワ人に伝えられた船泊縄文人ゲノムの割合

アイヌ人へ： 66%

オキナワ人へ： 27%

上記により、弥生時代（2000 年前）頃には、現代日本人と（日本の）弥生人のゲノムは、縄文人と大陸の現代人との中間付近にまで変化していたことがわかります。

これは、先述した「母系の mtDNA は、山東、遼寧、韓国と本土日本は、ほとんど差異がなく」「大陸から大量の弥生・渡来人がやって来て形成された mtDNA」であることを支持するものです。

（P 7～9 の資料は、国立遺伝学研究所（静岡県三島市）斎藤成也・神澤秀明などのグループにより発表されたものです。）

総論「日本人の祖先たち」 起源を DNA で探る、縄文人はどこから来たのか

前述した考古学の成果や「ヤポネシアゲノム」プロジェクト（2018 年度から 5 カ年計画）等の DNA 解析により、縄文人や弥生人たちが、北から南から大陸から日本へやって来たことを明らかにしつつあります。DNA を調べてみると、とくに日本人は中国などアジア周辺の人たちと外見は似ていますが、かなり違う要素を持っていることが分かってきました。「縄文人」は独自進化したアジアの特異集団だったのです。現在でも日本列島には『Y 染色体』の DNA の調査から 3 割以上が縄文系 DNA を持った男性のいる稀な環境という事がわかってきました。そして歴史書「古事記、日本書紀」を作った人たちはいつどこからやって来たのでしょうか。

(解説：日本人北方起源説に、茨城県取手市中妻遺跡の人骨が関係しています。)

(解説：鳥取県青谷上寺地遺跡 について「2018.12.23NHKE テレビサイエンス ZERO」放送。人骨の DNA 分析の結果、渡来ルートの従来説を覆す程の多種多様な DNA が検出された。「これにより弥生・渡来人が、大陸から直接・集団で鳥取県へ来ていた」と判断されました。)

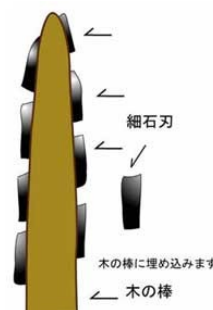
日本列島へ縄文から弥生にかけて、特に弥生期（3000 年前～1800 年前）には、多くの渡来人がやって来ました。このため各地で争いが起こり、縄文系 DNA を持つ男性の人口が 3 割（Y 染色体 D タイプ）にまで、激減してしまいました。その後西日本を支配した集団が、白村江の敗戦のあと、701 年大宝律令の実施（大宝建元）に伴い、倭国から日本国となって、やがて古事記・日本書紀を作り、現在まで改元が続いています。

縄文人のルーツについて、現在わかっている範囲（考古学）では、まずはじめに、北方（シベリア～サハリン）から 20,000 年前の北海道へマンモスやナウマンゾウなどを追ってきたこと、その後縄文時代 10,000 年以上の間に本州へ広がって行ったこと。

北からやって来た人達について、代表的な例をあげると、NHK の日本人はるかな旅(マンモスハンターシベリアからの旅立ち：2000 年放送)では、日本で発掘された縄文人の DNA と国立遺伝学研究所 DNA データバンクとの照合の結果、発掘された(取手市中妻遺跡出土)人骨化石が、縄文人 29 人中 17 人の mtDNA が現在のシベリア先住民族ブリアート人と一致したことなどが報告されていました。

(また、2018.3.17BS-TBS 諸説あり！でも「縄文人のルーツはシベリアのマンモスハンターだった」との放送がありました。)

居住地の近くには 23,000 年～20,000 年前の寒冷期のマリタ遺跡（1928 年発掘）があり、そこで使用されていた石器（右図再現：細石刃:ハイテク替刃「マイクロブレード」やりの先の両側に付け破損したら交換が可能）が、20,000 年前の北海道千歳市柏台 I 遺跡で発見されたこと。つまりマンモスなどを追って、北海道へ移動していたこと。この頃をピークに日本全体に遺跡が分布していることなどが放送されました。



取手市の細石刃については、埋蔵文化財センター第45回企画展(2019.2.15～4.21)の中で、1996年～1997年の柏原遺跡(ゆめみ野)発掘調査により、旧石器時代(BC30000～BC12000)の細石刃工房跡から4つの細石刃製作跡が発掘された事、また再現された細石刃のやり(上図)等、旧石器時代の狩猟具や出土品の説明がありました。

また最古の土器は、シベリヤ・アムール川流域（ガーシャ遺跡：13,000年前：厚く桶型）発見されていますが、日本でも東京都新宿百人町三丁目遺跡では、更に改良された煮炊き用土器(12,000年前：薄く底が尖っている）が発見されていること。これによって18,000年前頃からの急激な地球温暖化によって、日本の環境は草原から森林化していた。このため全ての動物は小型化していったこと。これらに対応すべくやりから弓矢へ発展・発達したこと。森林からの恵みを得るために生食だけではなく、これまで焼いても生でも食用にならなかったどんぐりなども（世界に先駆けた）土器の発達によって煮炊きし、食用にできたと考えられていることなどがわかってきたこと。そして世界の文明が農耕社会に移行したあとも、豊かな環境に恵まれ10,000年以上日本独自の縄文時代が続くこととなります。 有名な三内丸山遺跡では、栽培していたと見られる大規模な栗林や約5,500年前～4,000年前の大規模集落跡や大型堀立建物跡などが見つかっています。



南からやって来た人達について、代表的な例をあげると9,500年前の鹿児島上野原遺跡（1997年発掘）が、鬼界カルデラの火山灰の中から発掘された。東日本では弥生時代から使用が始まったとされる、壺型土器（貝殻文様：7,500年前）を他の地域より5,000年も前に使用していたこと。また丸木舟を作るとき使用する丸ノミ石斧「鹿児島梶ノ原遺跡（かこいのほら）」も発見されている。その後7,300年前になって鬼界カルデラの大噴火により南九州一帯が火山灰に埋もれてしまったことなどがわかっています。出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

しかし4,500年前の東京多摩ニュータウン NO.72 遺跡では、木材を伐採するように改良された梶ノ原（かこいのほら）遺跡などの南九州系統（右図：摩製石器）の石斧149本などの道具が発掘されました。これは南九州系統の技術や人達が関東まで来ていたこと。そして大きな社会を形成していたと考えることができると考えられます。

解説：鳥取県青谷上寺地遺跡 平成10年から3年3か月の期間をかけて、延べ約55,000㎡が発掘調査され、約5,300点、人数にして約109体分の人骨が出土した。今回新たにチームを結成し分析した。人骨から抽出された31個のmtDNAは1個を除きすべて大陸系で、C14測定法により2世紀に北九州からの伝播ではなく大陸から集団で直接やって来た可能性大であるという。朝鮮半島、中国との直接交流があったとされている。大陸からのmtDNAグループは「Cx1 Gx1 D4x15 D5x1 N9ax4 B4x2 B5x2 N7bx4」であり、多種多様(人口密集地を想定させる)で、列島内で混血していない。これらが直接青谷上寺地遺跡へ来ていたものと判断された。「2018.12.23NHKEテレビサイエンスZERO 国立科学博物館 篠田謙一、国立歴史民族博物館 藤尾慎一（P9のゲノム図参照）

さて、縄文人のDNA分析については（2015年5月29日NHK朝7時のニュース）が、伝えました。これがNHK最初のニュース。

国立遺伝学研究所 斎藤成也教授は、「縄文時代、1万6千年くらい前から3千年くらい前まで、日本列島の北から南まで縄文土器を作っていた人たちがいた。その人たちのDNAがわれわれにも伝わっている。それによって、大陸の中国とか東アジアの人たちとは少し私たちは違っている。」そして今、この仮説が実証されつつあります。

国立科学博物館で人類の起源などについて研究している、神澤秀明（かんざわ・ひであき）さんは、今回、膨大な量のDNA情報を取り出すことに成功。その特徴を調べました。

これまでの神澤さんの分析結果を、国立遺伝学研究所の斎藤教授が作成した現代人のDNAの解析結果に重ねると…。斎藤教授の仮説のとおり、日本人が分布する方向の先に、縄文人のDNAが位置するとみられることがわかりました。「今回、縄文人のDNAを分析して、現代の日本人には縄文人のDNAが受け継がれていることが可能性として見えてきた。縄文時代から現代にかけて、日本列島人の集団が遺伝的にどのように変化したのかが見えてくることがわかりました。」

●分かってきた縄文人のDNA(解説：Y染色体)

・NHKプロデューサー：「はい、日本人は中国などアジア周辺の人たちと外見は似ていますが、DNAを調べてみると、かなり違う要素を持っていることが分かってきました。」

そして今回、縄文人のDNAを直接調べられたことで、その原因が縄文人の影響である可能性が高まってきたわけです。」

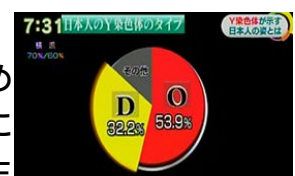
・NHKプロデューサー：「そのヒントとなるようなデータが、実は近年、男性だけにある『Y染色体』のDNAの調査から浮かび上がっています。Y染色体というのは、父親からその息子に受け継がれていくのが特徴で、その変化を調べると男性の先祖をたどっていくことができます。」

そして世界中で調査が行われた結果、男性は古い先祖から次々に分かれてきて、現在世界中には大きく分けて『A』から『T』まで20のグループがあることが分かってきています。このうち古いタイプは人類誕生の地と考えられているアフリカに多いんですが、実は日本人の中には、比較的古いと見られる『D』というタイプの人がいることが分かっているんです。」

●Y染色体が示す 日本人の姿とは

徳島大学大学院 医歯薬学研究部 佐藤陽一（さとう・よういち）准教授は、遺伝的な病気の研究の一環として、2,000人以上の日本人男性のY染色体の調査を行ってきました。2014年12月にまとめた研究結果です。

それによると、日本人の半数は、中国や韓国で多数を占める「O」というタイプでしたが、それに次いで多かったのが「D」で、3割を占めていました。「Dというグループは、アジア大陸では韓国、中国ともにほとんどみられない。Dというグループは分岐のかなり早い時点で誕生



したということが考えられることから、Dというグループは縄文系であるというふうに考えている。」

・NHKプロデューサー：「日本に古くから住んでいた縄文人を『D』、比較的近年、大陸からやってきた弥生系の人を『O』とすると、そのつじつまが合うと佐藤准教授は考えています。またDというタイプについては、非常に興味深いことも分かっています。それは日本以外に世界で2か所、Dを持つ男性が多い地域が見つかったんですが、それがチベットと、インド洋のアンダマン諸島となっているんです。」

・アナウンサー：「これはどういうことを意味するのでしょうか？」

・NHKプロデューサー：「簡単に言うと、今、日本にいるDの男性のお父さんのお父さんをずっとさかのぼっていくと、チベットやアンダマン諸島の人と共通のお父さんにたどり着くということなんですが、ではなぜこうしたDというY染色体を持つ男性が今このように分布しているのかということについては、徳島大学大学院の佐藤准教授は次のように話しています。」

●「チベット・アンダマン諸島 なぜ日本と同じ？（写真：アンダマン人）」



徳島大学大学院 医歯薬学研究部 佐藤陽一准教授は、「アジア大陸にもDというグループが分布していたと思われるが、その後Oというタイプがアジアを占めるようになり、取って代わられたと考えている。日本やチベットやアンダマン諸島は、島国だったり山間部に属していることから、他のグループとの交流がかなり限られていたため、現代でもかなり高頻度で残っていると考えている。」と述べた。

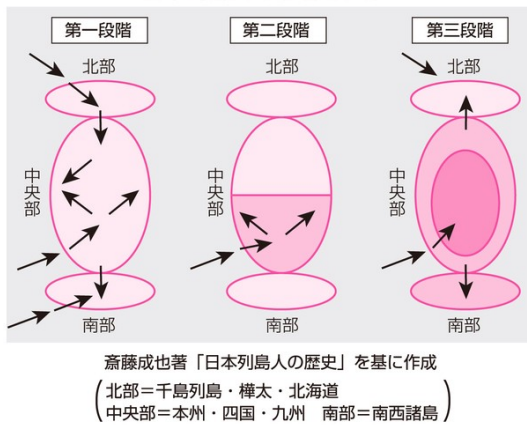
よく考えてみるとこれは大変な事態で、D男性の人口が激減する事態、つまり戦闘による人口の減少の事を言っています。よく3割残ったとも言えます。しかし、更に驚くことに母系のmtDNAは、山東、遼寧、韓国と本土日本は、ほとんど差異がないことがわかっています。この状況については、Oタイプ進出後に、山東、遼寧、韓国から大量の弥生・渡来人がやって来て形成されたmtDNAと考えられています。(P6 下図参照)

これは、旧石器時代人は、現在の韓（朝鮮）民族の直接の先祖ではなく、直接の先祖は約4000年前の新石器時代人からである。

つまり韓半島には、これ以前（縄文時代）は、日本列島から縄文人がやって来て住んでいたが、今度は、日本列島からではなく、北部シナからやって来て、縄文人の住んでいた半島を、北から圧迫して行った。（P4の韓国人は何処から来たか）という説も支持します。

更に、日本列島への渡来の波は、2回ではなく3回だったという説があります。 斎藤教授は、この「うちなる二重構造(P8下図参照)」をふまえた日本列島への「3段階渡来モデル」を提唱しています。日本列島への渡来の波は、これまで考えられてきた2回ではなく3回あった、というシナリオです。

日本列島人の形成モデル



第1段階（第1波）が後期旧石器時代から縄文時代の中期まで、第2段階（第2波）が縄文時代の後晩期、第3段階（第3波）は前半が弥生時代、後半が古墳時代以降という。

第1段階は旧石器時代から縄文時代中期に、ユーラシア大陸各地から狩猟採集民が渡来した。

第2段階は縄文後晩期の渡来人の波。大陸沿岸の漁業を中心とした「海の民」が日本列島に移住した。北部と南部にはほとんど影響がなかった。

第3段階は弥生時代以降。前半に朝鮮半島を中心に大陸から遺伝的に少し異なる人々が渡来。九州北部に水田稲作をもたらした。後半（古墳時代以降）は引き続き大陸から渡来民が到来し、列島中央部の政治の中心が九州北部から現在の近畿地方に移った（大宝建元）。北海道北部にはオホーツク文化人が渡来し、第1段階の渡来人との混血が進みアイヌが形成されたとする説。

このモデルが新しいのは、「二重構造モデル」では弥生時代以降に一つと考えていた新しい渡来人の波を、第2波と第3波の二つに分けたことだという。この二つの渡来の波があったために「うちなる二重構造」が存在している、と斎藤教授は云います。

つまり日本列島の人々は、およそ20,000年前(解説：縄文人のルーツ)頃から、住んでいて、アジア大陸の動乱（Oタイプの進出）とその後の三国時代頃までの戦乱により、大陸から日本列島へ人々が（白村江の戦いで百済が滅亡する頃まで）移動（流入）したことが考えられてます。(前述の鳥取県青谷上寺地遺跡について参照)

また最近のDNA分析結果から、縄文人と南北アメリカ人(karitiana)が非常に近いといわれております。ブラジル、チリ、エクアドルに住む原住民と縄文人が非常に近いということであります。（P7 下図の系統樹を参照。）

これは、ここ十数年で、DNAの解析技術が飛躍的に進み、現在の人類の祖先は20万年頃前にアフリカで生まれ、6～7万年前に世界各地に旅立ち、アジアへは約4万年前にやって来たことが明らかになっています。さらに2万年前ごろから当時陸続きであったベーリング海峡を越えてアメリカ大陸へ渡っています。1万年前には太平洋を船で渡ったグループも出てきた。と言っている「倭人も太平洋を渡った。」を支持するものと考えます。

「倭人も太平洋を渡った。」については、南米インディアのミイラの体内から発見された「ズビニ鉤虫」が、5℃以下で2年間暮らすと体内で死滅してしまう事がわかったので、従来のアジア・ユーラシア大陸に住むモンゴロイドが南北大陸に歩いて行った説と共に「倭人も太平洋を渡った。」事が証明されました。

解説：ズビニ鉤虫（*Ancylostoma deodenale*）、アメリカ鉤虫（*Necator americanus*）は、それぞれ *Ancylostoma* 及び *Necator* 属に属する線虫である。ともに雌成虫は体長10～12mm、体幅0.6～0.7mmで、雄成虫はそれよりも少し小型である。固有宿主はヒトである。

さて考古学的には、特に紀元前2世紀頃から始まる九州への流入により、糸島・博多湾岸およびその周辺出土物の様相は一変しました。「三種の神器」が出てくるのはそれ以後なのです。三種神器が揃って発掘されているのは、北九州の5つの遺跡しかありません。右図は、三種の神器出土地と吉武高木遺跡3号木棺墓から出土した三種の神器。

三種の神器出土地

No	遺跡名	所在
①	吉武高木	福岡市西区
②	三雲南小路	福岡県糸島市
③	井原	福岡県糸島市
④	須玖岡本	福岡県春日市
⑤	平原	福岡県糸島市



日本古代の王朝（王権）と言うと近畿大和王朝をイメージする方が多いと思います。実は、はじめに出雲王朝（銅鐸文明圏）があって、次に九州王朝（銅矛文明圏）、そして近畿王朝（現代まで続いています。）になっていったと考えられます。



銅鐸について言えば、出雲が侵略（国譲り）を受けたので、その銅鐸勢力が逃げていったのが、近畿地方であると考えられます。図の銅鐸文化圏というのは、出雲の銅鐸文化圏が敗れたあとの勢力図だったと言えます。

この国譲りで、出雲が支配された事により、近畿地方へ、次の段階で、更に2つの集団が東方（信州、関東）へ脱出しました。

1つは、タケミナカタ神に象徴される諏訪族で、各地に道祖神を分布させながら諏訪神社を建てていきます。今一つは、武蔵に足立郡をたてたアラ・アヤ族で、関東各地に氷川神社を創建し、やがて朝鮮半島からの渡来人「今来のカラ人」と共存しながら関東地方に広く展開していきます。

さらに常陸国には、出雲からの開拓者と共に、実に沢山の出雲神話がそっくりそのまま定着しています。また朝廷勢力の武甕槌（タケミカツチ：鹿島神宮の祭神）と建葉槌（タケハツチ：静神社の主祭神）に対し最後まで抵抗した蝦夷の英雄「星香々背男伝説」があります。大甕神社（日立市大みか町）の宿魂石が「かかせお」の化身と云われています。

こうして考えると古事記・日本書紀に書かれている古代王権（王朝）の流れは、南から太平洋側を流れたのではなく、どうも大陸や朝鮮半島から日本海を西から東へと流れていたように思われます。つまり朝鮮半島南部・壱岐・対馬→出雲→北九州→近畿（大和）と移っているように思われます。（了）

参考資料

- ・図説日本史通覧 帝国書院
- ・新訂古事記 現代語訳付 武田祐吉訳注 中村啓信補訂 角川ソフィア文庫
- ・日本書紀上下 全現代語訳 宇治谷孟（うじたにつとむ）、株式会社講談社、鈴木哲
- ・続日本紀 朝日新聞本（全十二巻佐伯有義、朝日新聞社、昭和15）三・四を体系本・諸本で補訂
- ・倭国伝（20100913:中国正史に描かれた日本）、株式会社講談社、藤堂明保・竹田晃・影山輝園
- ・別冊宝島2465（20160627:古代史再検証邪馬台国とは何か）、株式会社宝島社、瀧音能之
- ・日本人になった祖先たち 篠田謙一 NHKBOOKS1078 ……その他ネット検索

①北海道縄文人 全ゲノム完全解読（礼文島の船泊遺跡から出土した約 3800 年前の縄文人）船泊遺跡の紹介 2019.07.21

北海道の最北端に位置する礼文島には 10 カ所以上の縄文時代の遺跡があります。今回分析した人骨



が発掘された船泊遺跡はその中のひとつです。1998 年に町の教育委員会によって大規模な発掘調査が行われ、縄文時代後期の住居後や作業場跡、墓などの遺構と、土器、石器、骨角器、貝製品など大量の文化遺物とともに 28 体の人骨が発見されました。

今回、ゲノムの分析を行ったのはそのうちの男女 2 体（23 号女性と 5 号男性）で DNA の残りの良かった女性で、高精度のゲノム情報を得ることができました。

今回の解析では、彼女が CPT1A 遺伝子の変異を持つこともわかりました。

この変異は高脂肪食の代謝に有利で、北極圏に住むヒト集団ではこの変異した遺伝子の頻度は 70% を超えています。しかし、現代日本人にはこの変異はほぼ存在しません。船泊遺跡の出土遺物の分析から、船泊縄文人の生業活動は狩猟・漁撈が中心であったことが示されており、この変異は彼らの生活様式と関連していた可能性があります。考古遺物から推定される彼らの生活が、遺伝子からも裏打ちされたこととなります。

②資料（参考）出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

・アイヌ（アイヌ語: Ainu / Aynu, ロシア語: Айны）は、北は樺太から、北東の千島列島・カムチャツカ（勘察加）半島、北海道を経て、南は本州北部にまたがる地域に居住していた民族である。

・蝦夷（えみし、えびす、えぞ）は、大和朝廷から続く歴代の中央政権から見て、日本列島の東国（現在の関東地方と東北地方）や、北方（現在の北海道や樺太）などに住む人々の呼称である。東北地方の蝦夷（えみし）は和人により古代から征討の対象とされ（蝦夷征討）、平安時代の民夷融和政策により、平安時代後期までには東北地方北端まで平定され和人と同化した。（P8 図 混血をはじめた時期 55～58 世代前）

・中世以降、アイヌを蝦夷（えぞ）、北海道・樺太を蝦夷地と称してきた。

また、黒竜江（アムール川）下流域や樺太に居住する他の諸民族から、樺太アイヌは骨唄（クギ）などと呼ばれていた。

・ウタリの本来の意味は、アイヌ語で人民・親族・同胞・仲間であるが、長年の差別の結果、「アイヌ」という言葉に忌避感を持つ人が多いことから、アイヌを指す言葉として用いられることがあり、1961 年から 2006 年にかけて、行政機関の用語としても使用されていた。

③支那しな：中国本部地域の別称。その語源については明らかでないが、一般には紀元前 3 世紀末、中国を統一した秦(しん)王朝の秦の音がチーナ China とかチン Thin として西方に伝えられたことによるという。それが仏典に記され、さらに漢訳されて支那となった。この語はまた脂那あるいは震旦(しんたん)（チニスターナ。支那人の住地の意）などと音訳されている。したがって支那は外来語であり、英語のチャイナ China、フランス語のシーヌ Chine などともそれから出た語である。なお、日本のアジア地域への侵略過程で、侵略を正当化する理由の一つとしてその地域の住民を劣等視したことなどにより、支那ということばに蔑視(べっし)の意味はないが、日本人が使用すると蔑称的性格をもち、また中国人も侮蔑(ぶべつ)感を強くもつため、第二次大戦後は使用を避ける人が多くなっている。

出典：日本大百科全書(ニッポニカ)